

# JR東日本と連携したツアー “駅からハイキング”の企画・実施

栃木県立鹿沼商工高等学校教諭 鶴見 浩司

## 1. はじめに

平成22年4月、JR東日本大宮支社から鹿沼地区において「高校生が考えた駅からハイキング」の企画があるので、ぜひ本校生徒に担当して欲しい旨の連絡がありました。栃木県においては、既に那須高校と日光明峰高校が「駅からハイキング」事業に取り組んでおり、高い評価を得ています。この2校は、那須・日光という県内二大観光地にある学校で、学校周囲には観光資源が多数あり、この企画にもってこいの立地条件であるといえます。しかし、本校のある鹿沼市には目玉となる観光資源が乏しく、お話をいただいたときには本当に困惑しました。結局、「高校生の目線で、地域に密着した企画を考えて欲しい」とのお話を受け、現在本校が目指している『地域に密着した産業高校を目指す』という点で本校の目標と一致したこともあり、この企画をお受けすることとなりました。

## 2. 本校の沿革

栃木県の県庁所在地である宇都宮市の西部に位置する、歴史と伝統の街が鹿沼市です。その鹿沼市中央に位置する花岡町に、栃木県立鹿沼商工高等学校があります。本校は、明治36年創立の私立上都賀学館を母体とし、明治42年に設立が許可された上都賀郡立農林学校が前身となっています。その後、大正10年に栃木県立実業学校となり、大正11年に栃木県立鹿沼農商学校と改称されました。昭和23年には新学制実施に伴い栃木県立鹿沼農商高等学校が発足し、昭和47年に栃木県立鹿沼農業高等学校として農業科が分離独立するまで、「農商」の呼び名で県民に親しまれました。農業科を分離した後は、工業科を併設し栃木県立鹿沼商工高等学校となり現在に至っています。校訓として「自主創造」「和親協力」「誠実勤敏」を制定するとともに、教育目標として「身体を鍛え学習に励み 豊かな教養と人間尊重を身につけた国際的視野をもつ産業人を育てる」を定め取り組んでいます。また、平成21年には創立100周年を迎え、地域に根付いた歴史と伝統を基

礎とし、国際的視野をもつ産業人の育成に励んでいます。

## 3. JR東日本『駅からハイキング』の概要

『駅からハイキング』は、JR東日本が地域と連携を図り開催するハイキングイベントです。本年度で10周年を迎える企画であり、最寄り駅からハイキング感覚で小旅行を味わえ、沿線四季折々の自然や見所を手軽に散策できます。参加料は無料で、コースはおおむね2時間から7時間程度、有名観光地巡りのみならず、地域と密着した魅力ある企画です。参加者も年々増加傾向にあり、現在では年平均20万人が参加する人気企画となっています。

また、近年においては一般的なハイキングにとどまらず、自然に優しいハイキングをテーマとした「エコハイキング」や、高校生が企画する「高校生が考えた駅からハイキング」など、新企画を打ち出し好評を得ています。

## 4. 本校における実施状況（準備）

「駅からハイキング」事業に取り組むにあたっては、本校が以前から取り組んでいた地域連携事業の一環として位置づけ、地域活性化を図るとともに、マネジメントの学習に取り組むことを目標としました。地域に根付いてこそその産業教育であり、その活動場所を新たにいただけただことは、本校にとって大変ありがたいことでした。

実際には、「駅からハイキング」イベントを実施する前に、JR東日本大宮支社のスタッフを講師にお迎えして、『観光講座』という事前学習を4回ほど実施していただきました。

講座への参加生徒は、以前から鹿沼市の祭行事などにボランティア参加し、販売活動など地域連携事業に積極的な商業部員を中心に、企画運営係として24名としました。また、イベント当日と前日準備（第4回講座）は、実行係として生徒会役員等21名が追加参加することとなり、総勢45名が学校代表として参加することとなりました。

観光講座の内容は次の通りです。

日程	講座内容
6/14 第1回 観光講座  参加生徒 24名	講師 JR 東日本大宮支社営業部長 伊藤保洋 様 ・JR 東日本株式会社について ・観光が地域にもたらす効果について ・「駅からハイキング」について ・おもてなしの心について
6/24 第2回 観光講座  参加生徒 24名	講師 JR 東日本大宮支社営業部 伊藤直人 様 ・班分け（以後班別協議） ・ハイキングポイントを考える ・ハイキングコース作成 ・ハイキングテーマの作成
7/15 第3回 観光講座  参加生徒 24名	講師 JR 東日本大宮支社営業部 伊藤直人 様 ・ハイキングコースを実際に歩く ・地域店舗への協力依頼 ・危険箇所の確認
10/29 第4回 観光講座  参加生徒 45名	JR 東日本大宮支社営業部 伊藤直人 様 ・事前準備 ・配布物の確認 ・当日の役割分担の確認 ・該当店舗への挨拶 ・該当店舗の飾り付け

#### ①第1回観光講座

第1回の観光講座では、JR 東日本の会社概要と観光に対する考え方のプレゼンテーションを受け、今後取り組む「駅からハイキング」についての概要や取り組み方の講義を受けました。地元テレビ局や新聞社の取材も入り、担当生徒一同も事の大きさと重要性を再認識し身の引き締まる思いでした。

#### ②第2回観光講座

第2回講座では、実施日時を10月30日と決め、定期的にハロウィンをメインテーマにハイキングを企画することを決定しました。その後、生徒の班分けを行い、各班が選び出した100カ所以上の観光ポイント候補地から、コース案をいくつか作成し、最終的なコースを決定しました。また、テーマにハロウィンを設定したこともあり、各所にハロウィンの装飾をするとともに、ハロウィンの衣装を着ておもてなしをするということを決めました。

#### ③第3回観光講座

第3回の講座では、作成したコースを実際に歩い

てみました。7月の猛暑の中で、生徒は汗だくになりながらコースを歩き、コース内容を確認しました。途中、沿道の商店に積極的に声をかけ、ハイキングへの協力を依頼しながら歩きました。この頃になると、企画成功のため、生徒一同目標を持ち団結して動くようになっていました。また、参加希望者の中に外国人の方が多数いることがわかり、接客をどうするかが問題点として浮上し、急遽対応策をたてることになりました。

#### ④第4回観光講座

最終の第4回講座は、イベント前日でもあり当日の役割分担の確認や、配布物の準備、イベント協力店舗への挨拶および飾り付けなど多忙な一日となりました。特に、お客様を出迎える駅の装飾には力を入れましたが、十分な量の装飾品を作成したつもりでも、実際に飾ってみるとまばらな感じで、計画の甘さを痛感させられました。

以上4回の観光講座を経て生徒達が決めた内容は次の通りです。

#### ○実施日時

平成22年10月30日（土） 9:00～

#### ○ハイキングテーマ

『ウエル鹿沼！ ～秋空のハロウィン2010～』

#### ○テーマ補足説明

鹿沼商工高校は、伝統的な木工製品や歴史的ロマンを感じる山車、川上澄生の版画などで有名な鹿沼市にあります。季節は秋！さわやかな秋風に吹かれて、あなたの知らない鹿沼を発見するハロウィンパーティーに参加してみませんか。お待ちしております。

#### ○コース

JR 鹿沼駅を起点とし鹿沼市内をまわる、下記の全長約9kmのコースを設定。

①鹿沼駅（受付・スタート）

②川上澄生美術館※

③文化活動交流館※

④屋台のまち中央公園※

⑤まちなか交流プラザ※

⑥木のふるさと伝統工芸館※

⑦鹿沼商工高校 ※

・琴演奏（日本音楽部）・鹿沼名産菓子の特別販売

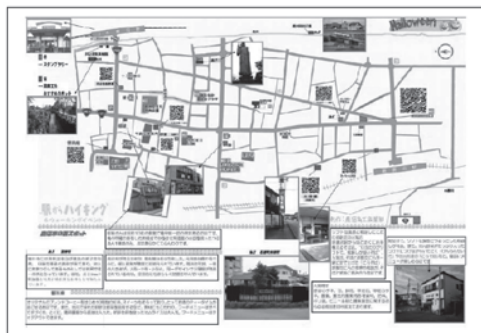
⑧商店めぐり

・マロニエ21 商店街 ・ババちゃんショップ等

⑨黒川河川公園

## ⑩鹿沼駅（ゴール）

※各ポイントでスタンプおよび館の配布



生徒が作成した観光マップ

### ○担当生徒

企画：商業部 マルチメディア部

運営：商業部 マルチメディア部

生徒会 日本音楽部

### ○おもてなし内容

- ・案内チラシ作成（英語版 日本語版）
- ・各ポイントでの案内，説明および接待
- ・ハロウィン仮装の実施
- ・鹿沼名産菓子の販売実習
- ・日本音楽部（全国大会出場）によるお琴の演奏
- ・装飾品の作成および各ポイントでの装飾
- ・鹿沼市観光マップの作成



生徒が作成した案内チラシ（英語版・日本語版）

## 5. 本校における実施状況（イベント当日）

前日準備は，台風接近の天気予報の中でも晴天に恵まれ順調に進めることが出来ました。しかし，イベント当日は台風の影響で雨風が強い一日となりました。開催も危ぶまれるような天候でしたが，そんな悪天候の中でも生徒達は時間通りに鹿沼駅に集合し，開会セレモニーを行うことができました。開会セレモニーでは，JR鹿沼駅長小柳様と本校曾羽校長から「ハイキングを楽しみに来られるお

客様のためにも，悪天候ではありますが，精一杯おもてなしに頑張りました。」との挨拶がありました。また，全国ネットのTV局や新聞社の取材も入り，否応なしに緊張感が高まりました。

イベントが始まると，雨の中多数のお客様が鹿沼駅に下車されました。このお客様をお迎えするにあたり，鹿沼駅改札口付近に魔女とカボチャのお化けに扮した生徒を配置し，お客様をお迎えしました。また，各ポイントにおいても，案内にあたる生徒は，魔女の帽子やマントを身につけハロウィンの雰囲気盛り上げる工夫をしました。

接客に関しては，日頃学んでいるビジネスマナーを取り入れ，丁寧かつ親切に対応し精一杯頑張ってお客様に対応することが出来ていました。生徒も，日頃の学習がすぐに役立つ事を肌で感じ取ることが出来，学習の大切さを再認識していました。また，外国人の方の参加に対しては，英語での接客対応に戸惑っていましたが，なんとか片言の英語と英語版パンフレットを上手に活用することで対応でき，安堵の表情を浮かべた生徒もいました。各ポイントの店舗からも「礼儀正しくきちんと接客が出来る」「頑張っていた」「声が出ていた」とお褒めの言葉をいただくことが出来ました。

## 6. 『駅からハイキング』を終えて

事前予約者が250名ということで，当日参加者を含めると400名を超えるお客様がいらっしゃるのではないかと想定していました。しかし，天候の影響もあり，参加者数も153名（外国人3名を含む）にとどまる結果となってしまいました。プラス思考で考えれば，悪天候にもかかわらず153名ものお客様に鹿沼を訪れていただけたことは，生徒達の企画が間違っていなかったことの証明となったのではないのでしょうか。

活動当初は，方向性が見えず戸惑うことも多くありました。しかし，観光講座を受講し本番が近くなるにつれ，生徒達がモチベーションを上げ積極的な姿勢に変化していく様には目を見張りました。

当初の目的である，地域の活性化とマネジメントの学習についても，このイベントの企画と運営というプロセスを通して，ほぼ達成できたと評価しています。本来，高校3年間で学ぶような様々なことを，生徒達はこの短い期間で，生きた教材を使い学ぶことができました。特に，地元鹿沼市が「歴史と文化の街」と見つけ直すことが出来たことや，イ

イベントの企画・運営ができたこと、地域の方とコミュニケーションが取れたことなどは、生徒達にとって大きな自信となったと思います。「地域に貢献できる産業人を育成する」という、当初の目標の一部を達成できたとともに、生徒達の今後の学校生活や人生においても、きっと役立つ事であったと確信しています。



仮装姿でお客様のお迎え風景

## 7. 実施後の反省点

### ○準備について

- ・係生徒は一生懸命に準備に取り組んでいたが、毎日遅くまで残る事となり負担が大きかった。
- ・コース作りにおける下調べが足りず、情報不足な中でのコース作りとなってしまった。
- ・コンピュータによるマップ作りには、ソフトの利用方法やデータの収集などに手間取った。
- ・前日準備では、指示系統が混乱したことや担当教員が足りず段取りが悪くなった。
- ・他の校務や学校行事と同時進行のため、予定がなかなか決められなかった。
- ・本年度初めて実施したため予算立てがなく、次年度以降はある程度の予算化が必要である。
- ・全校生徒からリーダーとなる有志を募るなど、学校全体で実施する雰囲気作りが必要である。
- ・全生徒が何らかの形で関わられるような工夫が必要である。

### ○実施について

- ・本校体育館を利用した日本音楽部の琴演奏は評判が良かった。
- ・学校までわざわざ足を運んでもらうには、内容にもう一ひねりが必要である。
- ・生徒作成のマップが、JR側で作成したマップと内容が重複してしまった。
- ・作成したマップの情報量が多く、見やすさへの工夫が必要であった。

- ・悪天候における実施となったが、生徒達の防寒対策や健康管理等に更に注意が必要である。
- ・接客の事前練習量が不足しており、参加者全員が同じレベルでの接客が出来なかった。
- ・生徒が企画したイベントや仮装については、ハロウィン気分を盛り上げ好評であった。

## 8. おわりに

ハイキング実施日が近くなると、問題点も多く出てきました。しかし、生徒達の活動には目を見張るものがあり、これらの問題点を一つ一つ克服していくことができました。これにより、大きな成果を得ることができるとともに、次年度以降への実施に向け更なる改善点が見えてきました。特に、「一部の代表生徒だけで取り組むのではなく、全生徒で取り組めたなら、もっと良い企画となるのではないか。」というような、実施前の生徒からは考えつかないような、全体を見据えた発想が反省点として出てきたことは大きな収穫だと思います。確かに、全生徒が何らかの形で参加できれば、地域・学校に強力に根付いた企画となり、発展性も無限に広がるのではないのでしょうか。

### 「駅からハイキング」ハロウィン仮装で歓迎 鹿沼商工高生がJRと企画

(10月30日 1934)



【鹿沼鹿沼商工高生がJR東日本と協力して初めて企画した「駅からハイキング」が30日、JR鹿沼駅を起点に行われた。多くの参加者が雨の中、同駅を出発して市内の名施設を見物し、ハロウィンの仮装をした生徒たちの歓迎を受けた。

生徒たちはコースに自分たちの鹿沼商工高や川上澄生美術館、木のふるさと伝統工芸館、商店街などを組み入れた。季節に合わせハロウィン風に演出し、麗女やかボチャおひげの格好で出

迎え、台言葉でのお菓子プレゼントも。

彫刻屋台のある場所をコースに加え、同校体育館では日本音楽部が琴を演奏するなど、和洋文化の折衷を意図したという。

台風の影響が心配されたが、参加者はウォーキングやハイキングのベテランが多く、雨具に身を包んで元気に散策。JR英語サイトでの告知したため、外国の参加者も目立った。「鹿沼高校は英語で何と言いますか」と生徒に質問する外国人もいた。

### 下野新聞記事ネット版 (2010.10.30)

今後も、「地域に密着した産業人を育成する」という当初の目標に向かい、地域活性化のため、学校の発展のため、積極的に取り組んでいきたいと考えています。何かに真剣に取り組むことにより、子供達が成長でき、目標に近づけるということを今回の経験で改めて学ぶことができました。このような素晴らしい機会を与えてくださった関係各位に、本当に感謝したいと思います。